

公益社団法人 日本天文学会

2021 年度事業報告書

I. 出版物の刊行(定款第 2 章第 5 条 2 項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第73巻2号-6号、第74巻1号の計6回刊行。総論文数118編 (うちLetter 8、Review 1)、総頁数1,731頁、発行部数100部、偶数月25日発行。
2. 天文月報 : 第114巻5号-12号、第115巻1号-4号を刊行。総頁数762頁、総目次8頁、発行部数3,450部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2021年秋季年会発行総頁数278頁、350部印刷。2022年春季年会発行総頁数256頁、350部印刷。
4. ジュニアセッション予稿集 : 春季年会予稿集72頁、400部印刷。
5. 「シリーズ現代の天文学」第2巻第2版補訂版と第9巻第2版を刊行した。

II. 年会の開催(定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業)

1. 2021 年秋季年会

2021年9月13日(月)から15日(水)の3日間、京都産業大学神山キャンパス(京都府京都市)にて開催予定であったが、COVID-19感染拡大の状況を考慮し、完全オンラインでの開催とした。講演は口頭講演とポスター講演を実施し、それぞれ498件と94件の計592講演があった。参加登録人数は会員1,235名、非会員116名の計1,351名であった。本年会では、通常講演のほか、特別セッション1件(天文教育フォーラム)、企画セッション1件、研究奨励賞受賞記念講演もオンラインで開催した。3回目のオンライン開催となり今回からポスターc講演(口頭発表なし)を再開したが、大きな問題なく開催することができた。記者会見はオンラインで開催したが、展示コーナー、懇親会、保育室の開設は中止とした。公開講演会は9月12日(日)にオンラインで開催し、435名の参加があった。

2. 2022 年春季年会

2022年3月2日(水)から5日(土)の4日間、広島大学東広島キャンパス(広島県東広島市)にて開催予定であったが、COVID-19感染状況が収束せず、4回目の完全オンラインでの開催とした。講演の種類は前回年会と同様とし、講演件数は口頭講演が461件、ポスター(b・c)講演が73件で、合計534講演があった。年会参加登録人数は会員1,141名、非会員118名の計1,259名であった。本年会では、通常講演のほか、特別セッション1件(天文教育フォーラム)と林忠四郎賞・研究奨励賞・欧文研究報告論文賞の受賞記念講演、ジュニアセッション(3月19日(土))もオンラインで開催した。ジュニアセッションの講演数は60件であり、セッションには推計400名ほどの参加があった。記者会見はオンラインで開催したが、展示コーナー、保育室の開設、懇親会は中止とした。また、公開講演会は3月6日(日)にオンラインで開催し、99名の参加があった。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第 6-8 章第 36-57 条に該当の事業)

1. 代議員総会

日時 : 2021年6月12日(土) 13時00分~16時20分

場所 : 日本天文学会事務所(オンライン開催)

議長 : 梅村 雅之(議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2021年9月14日（火）11時40分～12時30分
場 所：京都産業大学・京都大学（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2022年1月10日（月）13時00分～17時00分
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2022年3月3日（木）11時40分～12時25分
場 所：広島大学・呉工業高等専門学校（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2021年6月12日（土）16:30～17:40
場 所：日本天文学会 事務所（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2021年9月13日（月）18:00～19:10
場 所：京都産業大学・京都大学（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2021年12月25日（土）13:00～15:10
場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2022年3月2日（水）16:30～18:00
場 所：広島大学・呉工業高等専門学校（オンライン開催）
議 長：山本 智（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2021年9月14日（火）16:00～17:00
場 所：京都産業大学・京都大学（オンライン開催）
司 会：町田 真美

日 時：2022年3月4日（金）16:30～18:00
場 所：広島大学・呉工業高等専門学校（オンライン開催）
司 会：町田 真美

4. 公益社団法人2020年度監査

日 時：2021年5月13日（木）13:30～15:30
場 所：国立天文台すばる棟大セミナー室
出席者：大石雅寿、関井隆、鹿野良平、早野裕、鈴木建（オンライン参加）、佐藤良信事務長、亀井久治公認会計士（オブザーバー）

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の22の委員会と1の顧問において構成メンバー（任期2年の1年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

第7期代議員（任期：2022年度～2025年度）の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2021年11月8日～12月6日を投票期間とし、2021年12月7日に開票作業を行った。代議員選挙施行細則第10条により、定数22名の当選者を得票順に決定した。また次点2名を補欠として決定した。以上の選挙結果を天文月報115巻2号において報告した。

◇ 推薦委員会

第7期代議員（任期：2022年度～2025年度）の選挙について、代議員選挙施行細則第7条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦を募るため、2021年9月20日～10月4日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会で代議員候補として被推薦者の選出を行い、その結果を2021年10月7日に選挙管理委員会へ報告した。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2021年度は、190編の論文が投稿され編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を6号発行し、118編・1,731頁を掲載した。編集委員会議を2021年12月28日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、紙版の扱い、国際化などについて議論した。編集顧問と協力して5年振りに投稿の手引きの内容を見直し、2022年3月に投稿の手引きの第2版改訂版を公開した。また、特集企画についてそのあり方や今後の方針について、編集顧問と共同で議論を行い、投稿の手引きに反映した。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を2021年12月28日にオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、紙版の扱い、国際化などについて議論した。編集委員と協力して5年振りに投稿の手引きの内容を見直し、2022年3月に投稿の手引きの第2版改訂版を公開した。また、特集企画についてそのあり方や今後の方針について、編集委員と共同で議論を行い、投稿の手引きに反映した。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、zoom会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。COVID-19影響下の社会貢献として、オンライン版の最新号公開日を早め、また、会員及び購読者に閲覧を制限していた記事すべての制限解除を継続中である。内容面では、6つの特集（せいめい望遠鏡、天文と社会とつなぐ最近の動向、ハビタブル系外惑星、EHT、JWSTサイエンス、アストロケミストリー）を組んだほか、シリーズでは小平桂一氏のロングインタビューを開始し、継続中である。また、イシツカホセ氏と高遠徳尚氏の追悼記事を掲載した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2021年9月13日～15日・オンライン）および春季年会（2022年3月2日～5日、ジュニアセッションは3月19日、共にオンライン）を開催した。両年会の準備にあたっては、2021年6月28日・7月6日・2021年12月10日・2022年1月7日に、オンラインにて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。

◇ 天文教育委員会

春季及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム（日本天文教育普及研究会と共催）を開催した。講師紹介プログラムは本年度11件依頼があり、合計11名の会員を紹介し、全11件が成立した。監修者紹介プログラムを新規に立ち上げ、本年度3件依頼があり、合計3名の会員を紹介し、全3件が成立した。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

昨年度にリニューアル公開したウェブサイトや学会が運用するメーリングリスト等の維持管理を行

った。また、委託業者の支援を受けつつウェブサーバを保守・運用した。学会が運用しているメーリングリストに関して、事業継続性の観点から運用体制を変更する方向で検討を開始した。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2021 年 9 月号並びに tennet で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 5 日締切で会員に依頼した。12 月 5 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2022 年 1 月 10 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2021 年 9 月号並びに tennet で第 33 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2021 年 12 月 17 日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者 3 名を選出し、2022 年 1 月 10 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 113 回から 116 回までの 4 回実施した。応募 9 件（前年 13 件）のうち、5 件を採択したが 3 件は採択後に渡航中止ないしは辞退した（前年の採択は、辞退により結果的に 2 件）。2021 年度の採択率は 56% で、採択額は 1,494,196 円（前年 469,333 円）であったが、COVID-19 の再度の急拡大により海外渡航が困難な状況になったため、支給額は 474,863 円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

2022 年度国内研修支援金の希望者募集を天文月報 2021 年 7 月号並びに tennet にて実施した（旧名称の内地留学奨学金も併称）。応募件数は 0 件だった。2019 年度、2020 年度の国内研修支援金の成果報告書に関して、それぞれ天文月報 2021 年 10 月号、2021 年 11 月号への掲載支援を行った。国内研修支援金選考委員会議を 2022 年 3 月 5 日にオンラインで開催し、現状についての情報共有に加え、応募申請書の書式変更などについての検討を行った。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報 2021 年 9 月号で 2021 年度天文功労賞候補者の推薦を会員に依頼したが、一般会員からの推薦件数は 0 件であった。2022 年 1 月 3 日にオンライン開催 (Zoom 利用) された第一回選考委員会、及び 1 月 5 日にハイブリッド開催 (広島大学東広島キャンパス + Zoom 利用) された第二回選考委員会において、天体発見賞 5 氏 11 件、天体発見功労賞 2 氏 2 件の候補を選出し、2022 年 1 月の代議員総会に推薦した。また、天文功労賞 (長期部門) については、委員から推薦のあった 6 件の中から委員の支持を最も多く集めた 1 氏 1 件を選考した。天文功労賞 (短期部門) についても委員からの推薦に基づいて選考を行い、1 氏 1 件を候補として選考し、長期部門と合わせて代議員総会へ推薦した。代議員会において異論は出ず、推薦した通りの受賞が確定した。なお、選考委員会の開催時期について、天体発見賞と天体発見功労賞が毎年年末 12 月 31 日までの発見を対象としていることから、年末年始の時期に開催してきたが、例年 1 月 10 日前後に開催される代議員委員会への資料提出まで時間的な余裕がないことから、今後、天文功労賞の選考については 1-2 か月前倒しをする予定である。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報 2021 年 9 月号、tennet、および学会 web ページにおいて、日本天文遺産 (第 4 回) の推薦を会員に依頼した。2021 年 10 月 21 日と 11 月 8 日にネットワーク会議による選考委員会を開催し、2 件の候補を選出した。それぞれについて現地調査および所有者/管理者の意向確認を行い、それら 2 件を 2022 年 1 月 10 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第四回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・tennet を通じて 9 月末締切で推薦を依頼、昨年度の推薦分 2 件を含め 11 件の推薦を受けつけた。うち 2 件が重なっていたため 9 件（個人 4・団体 5）を候補として審査を行った。2021 年 10 月 28 日と 11 月 1 日に zoom にて全員出席の下、選考委員会を開催、3 件（個人 1・団体 2）を授賞候補とすることを決定した。2022 年 1 月 10 日に開催された代議員総会で 3 件とも授賞が決まり、3 月 1 日に春季年会に先立つ記者発表で発表された。表彰式は事前に賞状・盾を送付後、ハイブリッド形式で 3 月 8 日に副会長の司会の下、会長が表彰する形で実施した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2022 年春季年会(広島大学・オンライン開催)にて第 24 回ジュニアセッションを開催した。2022 年 1 月 25 日の予稿集提出締め切りを受けて、2 月 6 日にプログラム編成会議をオンライン(Zoom)会議にて実施したほか、随時各委員、世話人がメールで連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表 6 件を含め、合計 60 件の発表(口頭およびポスター)申込があった。ただし、COVID-19 拡大による学校側の活動制限に伴い、3 件の発表キャンセルが発生した。発表者(生徒)のべ 281 名に加え、指導者、研究者、教育関係者など合わせて約 400 名の参加があった。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を送付し、その他の参加者はジュニアセッション HP から PDF で閲覧することとした。3 月 19 日に行われたジュニアセッション当日は、口頭発表に加え新たにポスターセッションもオンラインで実施した。さらに、3 月末までにフォームから投稿された各発表への質問・コメントをとりまとめて、後日発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」が、COVID-19 蔓延の影響で 2021 年度もオンライン開催されたため、教育委員会の臼田-佐藤氏と国立天文台の大学院生らとともに、キャリア相談のコーナーに参加した。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍した。天文学会員へのアンケート結果をまとめて、天文月報記事「天文学会男女共同参画 20 年の歩み—天文学会アンケートから学ぶ—」を執筆し、記事が 11 月号に掲載された。ダイバーシティの観点より、天文学会代議員の推薦を行った。子育て世代・介護世代をサポートするため、COVID-19 終息後における年会オンライン開催の提案を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、他の 8 団体と協力し、第 29 回衛星設計コンテストを実施した。今年度は 65 作品(設計の部 6 件、アイデアの部 40 件、ジュニアの部 19 件)の応募があり、うち 14 件(設計の部 3、アイデアの部 4、ジュニアの部 7)が一次書面審査を通過した。それらを対象とした最終審査会は 2021 年 11 月 13 日(土)、審査委員は X-NIHONBASHI し集合し、提案各グループの発表はオンラインという形式で開催された。審査の結果、各賞が決定され、日本天文学会賞は、東京都市大学グループによるアイデアの部の提案「粒子推進&RTG で挑む追い越せボイジャー計画」に授与された。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

令和 3 年度も前年に引き続き COVID-19 の感染拡大が続く状況にあり、従来通りの対面形式の講演会の実施が困難な状況であったため、オンライン形式の講演会の登録も可能として 5 月 20 日から全国同時七夕講演会の Web ページ上で講演会の登録受け付けを開始した。天文教育普及研究会の共催および日本学術会議の後援を取得した。7 月 7 日の七夕の日や、伝統的七夕の日(令和 3 年は 8 月 14 日)を中心とした 6 月下旬~8 月の間に 31 件の講演会(うち 10 件はオンライン開催のみ、残りは対面またはハイブリッド開催)が実施された。これらのうち 22 講演会から参加者の報告があり、当日参加者数と 9 月末までの講演会の視聴者数(録画も含む)の合計は 2248 人であった。

◇ キャリア支援委員会

COVID-19 蔓延以前のキャリア支援活動は、年会開催時に対面で行うものが主であったが、今後、オンラインでの活動が重要な柱となることがはっきりしてきたため、2021 年度は今後の活動の見直しと再編をおこなった。具体的には、形式ばらないスタイルでキャリア形成に関する様々な情報交換を行うキャリアカフェを継続すべく、ニーズの収集を行った。2020 年度に行った、社会で活躍する天文学出身者とのキャリアカフェの内容を天文月報(2022 年 1 月号)で発信した。2021 年度の大きな進展は、これまでの活動と今後の計画などを発信するホームページ(HP)を学会 HP に開設したことである。2017 年から運用を開始したウェブサイト「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」においても引き続き、天文学と社会をつなげる職種の公募情報を収集し、公募情報を発信した。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」 (<http://astro-dic.jp/>) の更新・改良・維持運用を行っている。2022 年 4 月 12 日時点での登録用語数は 3,259 用語である。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この 1 年間(4 月 1 日から 3 月 31 日)での内容更新数は 369 回である。並行して、制作委員による会議を毎月 1 回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。利用者からのフィードバック機能を強化し 1 月より運用を開始した。3 月末現在で 35 件の反応があり、妥当な指摘については適宜対応した。Deadlink も定期的にチェックして適宜対応した。総アクセス数は、季節変動はあるものの前年同月比では年々増加傾向にあり、この 1 年間では最大で月約 40 万アクセス程度である。

V. 各賞の授与(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

決定が遅れた 2020 年度の研究奨励賞と天文功労賞は 2021 年 6 月 12 日に開催された代議員総会において決定し、2021 年秋季会員全体集会で授与した。2021 年度日本天文学会各賞は、2022 年 1 月 10 日に開催された代議員総会において決定し、2022 年春季会員全体集会で授与した。全ての受賞者は以下の通り。

◇ 林 忠四郎賞 (1 氏)

千葉 柁司 (ちば まさし) 氏
東北大学 教授

研究の表題「銀河考古学および銀河スケールのダークマター分布の研究」

◇ 欧文研究報告論文賞 (2 編)

・ 論文題目 : Big Three Dragons: A $z = 7.15$ Lyman-break galaxy detected in [O III] 88 μm , [C II] 158 μm , and dust continuum with ALMA

著 者 : Takuya Hashimoto et al.

出版年等 : Vol. 71 (2019), No. 4, article id.71

・ 論文題目 : The formation of massive molecular filaments and massive stars triggered by a magnetohydrodynamic shock wave

著 者 : Tsuyoshi Inoue et al.

出版年等 : Vol. 70 (2018), No. SP2, article id. S53

◇ 研究奨励賞 (2020 年度 3 氏、2021 年度 3 氏)

2020 年度

- ・片岡 章雅 (かたおか あきまさ) 氏
国立天文台 科学研究部・助教
研究の表題: 「原始惑星系円盤におけるダスト成長過程に関する理論的・観測的研究」
- ・中島 王彦 (なかじま きみひこ) 氏
国立天文台 科学研究部・特任助教
研究の表題: 「遠方銀河の星間物質に関する分光学的研究」
- ・守屋 堯 (もりや たかし) 氏
国立天文台 科学研究部・助教
研究の表題: 「超新星爆発に至る大質量星終末期進化の研究」

2021 年度

- ・稲吉 恒平 (いなよし こうへい) 氏
北京大学 Kavli 天文天体物理学研究所 助教
研究の表題「巨大ブラックホールの形成・成長過程に関する理論的研究」
- ・堀田 英之 (ほった ひでゆき) 氏
千葉大学 大学院理学研究院 准教授
研究の表題「恒星ダイナモ活動の基礎物理としての星内部の熱対流磁気乱流に関する理論的研究」
- ・Kenneth Christopher Wong (ケネス クリストファー ワン) 氏
国立天文台ハワイ観測所 プロジェクト研究員
研究の表題「強い重力レンズを用いた観測的宇宙論の研究」

◇ 天体発見賞 (5 氏、11 件)

- ・板垣 公一 (いたがき こういち) 氏 6 件
超新星 2021bge の発見, 超新星 2021fxy の発見, 超新星 2021hpr の発見, 超新星 2021pfu の発見, 新星 V606 Vul の発見, 超新星 2021vaz の発見
- ・中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏 1 件
新星 V1405 Cas の発見
- ・西村 栄男 (にしむら ひでお) 氏 2 件
新星 V6594 Sgr の発見, 彗星 C/2021 01(Nishimura) の発見
- ・上田 清二 (うえだ せいじ) 氏 1 件
新星 V1674 Her の発見
- ・徳岡 修二 (とくおか しゅうじ) 氏 1 件
超新星 2021afsj の発見

◇ 天体発見功労賞 (2 氏、2 件)

- ・中村 祐二 (なかむら ゆうじ) 氏 1 件
新星 V6594 Sgr の独立発見
- ・金子 静夫 (かねこ しずお) 氏 1 件
新星 V6594 Sgr の独立発見

◇ 天文功労賞

2020 年度

長期的な業績 (1 グループ, 1 件)

- ・東亜天文学会火星課 (とうあてんもんがつかい かせいか)
「87 年にわたる火星の継続観測と 34 年にわたる機関紙『火星通信 Communications in

『Mars Observations』発行を通じた国内外の火星観測者の交流促進」

短期的な業績（3氏、1件）

- ・SonotaCo ネットワーク（金盛 亨（かなもり とおる）氏）、
上田 昌良（うえだ まさよし）氏、司馬 康生（しば やすお）氏
「習志野隕石の軌道決定」

2021年度

長期的な業績（1氏、1件）

- ・金田 宏（かねだ ひろし）氏
「独自の画像ソフトウェアの開発と普及による国内アマチュア天文家の新天体搜索活動への
貢献」

短期的な業績（1氏、1件）

- ・野口 敏秀（のぐち としひで）氏
「長期測光観測による新種の重力崩壊型超新星の発見への貢献」

◇ 天文教育普及賞（1氏、2団体）

- ・山田 義弘（やまだ よしひろ）
日本各地の天文協会設立等による天文普及活動への貢献
- ・名古屋市科学館 天文指導者クラブ（ALC）
長年にわたるボランティア組織としての天文教育普及活動への貢献
- ・上越天文教育研究会と上越清里星のふるさと館
新潟県上越地方における地域の学校教育と緊密に連携した天文教育普及活動

◇ 日本天文遺産（2件）

- ・「明治7年金星太陽面通過観測地（長崎、神戸、横浜）」
- ・「小山ひさ子氏の太陽黒点スケッチ群」

VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

◇ 早川幸男基金

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約150万円の援助を行なう予定であったが、COVID-19の影響で援助予定の海外渡航の一部が中止となったため、支給額は約48万円であった。（応募9件、採択5件（うち3件は採択後に渡航中止ないしは辞退）、採択率56%）

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）

COVID-19の影響により年会がすべてオンライン開催となったため補助金の支給はなかった。

◇ 国内研修支援金

2020年度に決定し2021年度において研修を行った奨学生1名への支援金（12万5千円）は、2022年度内に支給予定である。なお、2022年度国内研修支援金（2023年度内において研修を実施）の応募者はゼロであった。

VII. 後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援7件、協賛9件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先 (代表者)
2021/4/16	2021/6～ 2022/2	後援	青少年のための科学の祭典 2021	日本科学技術振興財団
2020/6/5	2021/9	協賛	第 49 回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
2021/6/1	2021/7	後援	サイエンス・デイ 2021 (第 15 回)	NPO 法人 natural science
2021/6/9	2021/7	後援	第 19 回高校生・高専生科学技術チャレンジ	朝日新聞
2021/6/18	2021/9	協賛	第 39 回レーザセンシングシンポジウム	レーザセンシング学会
2021/7/6	2020/9	協賛	第 48 回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
2021/7/14	2021/9	後援	第 3 回量子線イメージング研究会	日本航空宇宙学会
2021/7/14	2021/10	協賛	Optics & Photonics Japan 2021	日本光学学会
2021/7/27	2021/11	協賛	第 65 回宇宙科学技術連合会講演会	日本航空宇宙学会
2021/9/3	2021/10	後援	第 21 回こどものためのジオ・カーニバル (最終的に中止)	こどものためのジオ・カーニバル企画委員会
2021/9/6	2021/10	後援	2021 年度「三鷹・星と宇宙の日」	自然科学研究機構国立天文台
2021/10/7	2021/10	後援	みたか太陽系ウォーク (最終的に中止)	三鷹ネットワーク大学推進機構
2022/11/22	2023/8	協賛	第 35 回 国際電波科学連合会総会 (2023 年)	電子情報通信学会
2022/1/19	2022/5	協賛	日本地球惑星科学連合 2022 年大会	日本流体力学会
2022/2/7	2022/6	協賛	第 47 回光学シンポジウム	日本光学学会
2022/2/24	2022/9	協賛	日本流体力学会 年会 2022	日本流体力学会

Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、TENNET・天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(井上学術賞 1 件(受賞決定)、日本学術振興会育志賞 1 件、島津奨励賞 1 件(受賞決定)、藤原賞 1 件、東レ科学技術研究助成 1 件、山田科学振興財団研究援助 1 件)

Ⅸ. 事務所活動(定款第 1 章第 2 条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員 3 名と 5 名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

Ⅹ. その他

COVID-19 感染拡大の影響に関連し、経済的に困窮する学生の正会員 270 名と、研究活動に支障が生じて将来のキャリアパスにも支障が生じかねない状況で困窮する有期雇用契約の職(いわゆるポストク)に就く正会員 52 名の、2021 年度会費を免除した。

会員数

2021年度末(2022年3月31日)現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合計
2021年3月31日	2,159(504)	1,034	38	42	3,273
入会	231(214)	54	0	0	285
退会・除籍等 (うち除籍)	△179(115) (△16(0))	△86 (△11)	0 (0)	0 (0)	△265 (△27)
移籍(増)	7(3)	24	—	—	31
移籍(減)	△24(10)	△7	—	—	△31
正会員へ(学生減)	△(48)	—	—	—	—
2022年3月31日	2,194(548)	1,019	38	42	3,293

(注1: 除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2: 移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責: 庶務理事 町田真美)